

根来山げんきの森倶楽部

令和3年4月作業日誌



新緑の眩しい季節になりました。今回は石垣積みや炭小屋の作業など、若手とベテランがチームを組み、力を合わせて取り組みました。倶楽部員も徐々に増え、新規の方を対象にした研修も行いました。

活動日：令和3年4月18日 9:30～15:00 天気：くもり 倶楽部員：55人

30袋分の炭に



炭出し…昨日の雨は上がり、風が少し寒い中、炭出し作業が始まりました。皆さん手慣れた作業で、炭出し、炭のカット、炭の袋詰めと作業が進みました。最近では、10kg入りの炭袋が20袋前後できていましたが、今回は、いつもより多い30袋の炭ができました。ただ、まだ炭になりきってない炭

材も多く残っていました。今までは炭材を窯に詰める際、床面に空気の通り道のすき間を作っていたのですが、今回は実験的にそのすき間を作らずに炭材を詰めて焼いたので、そのことが影響してか、今までと違う焼き上がりになりました。

炭出しの後はいつもでしたら次回の炭焼き用に炭材を詰めるのですが、窯の天井部分の土がかなり崩れてきていましたので、安全のため窯の修理が必要ということになり、炭材詰め作業はしませんでした。そのため、今日の炭出し作業はお昼で作業が終了し、解散となりましたが、午後は都合のつく方で薪割りや他の作業場所への参加などになりました。皆さんお疲れ様でした。(堀田 正二)

安心して渡れるように

橋の改修…ヒノキ谷東側入口にある橋の改修作業を9名(男性4名、女性5名)で行いました。はじめに朽ちた踏み板をパールで外し、次に3本の橋げたのうち、細くなった真ん中の1本を外しました。代替りの橋げたとして近くの木を使うことにしました。チェーンソーで切り、枝払い、橋げたの長さに揃えた後、全員でロープを使って設置場所まで移動させました。午後は男性1名増員して10名で再開。新しい橋げたを既存の2本の間に落とし込む。ところが新しい橋げたの高さが既存の2本と揃わないため、チェーンソーで削る作業を行いました。そして橋げたに新しい踏み板を釘で固定し、今回の改修作業を終えました。これで安心して橋を渡ることができるようになりました。(大田和 康規)



20 本もの立木を整備

ウルシ谷整備…本日は倶楽部員 7 名でウルシ谷の作業にあたりました。少し肌寒い朝ですが、このぐらいが作業に最適かと思えます。日当たりを良くするために立木を整備することにしました。あらかじめ決めておいた木を切るのですが、何せ本数



が多いので大変です。T 氏と H 氏が中心となり、太い幹と太い枝はチェーンソーで切り、細い枝はノコで 3 名が手伝いました。その枝の多いこと。ちょっとした小山のようになりました。幹は井形に組み、階段の補修用に取り置いています。計 20 本を切りました。皆さまお疲れ様でした。あとは、茶の木の移植を 6 株し、草刈りも行いました。本日はここまで。(吉田 恒臣)

←ウルシ谷のシンボル「こぶし」の花 (今年 2 月に撮影)



微調整くり返し、積み上げる



石垣積み…駐車場脇の歩道にて石垣積み(空積み)をしました。まずは土台となる部分を締め固めて丸太を敷き、ずり落ちないように杭を打って固定しました。この丸太を足がかりにして土台から石を積み始めます。大きめの石を置いて安定させながら 1 段目をつくります。石の“顔”が正面に来るように、そして面が横一列に真っ直ぐ並ぶように微調整しながら、石を置きました。どの面を正面に持ってくるか安定するのなかなか一目で判断できないのですが、とりあえず初めは指示されるままに、回したり裏返したりしながら置いていきました。積んだ石の裏側には土を入れ、足で踏み固めてしっかりと安定させます。こうしてようやく 1 段目が完成しました。2 段目になると少し難しくなってきます。置いた石が手前に押し出されてこないように角度を付けつつ、1 段目の石にしっかりと噛むように、そして面が横一列に真っ直ぐ並ぶように、さらに石垣全体の傾きも考えながら置いていきました。1 段目の石の間に上手く噛ませて安定させるのが難しく、向きを変えたり少しずつずらしたりしながら安定する場所を探ります。

3 段目にもなるとさらに難しくなってきて、石を回したり裏返したり、別の石に変えたり、それでもなかなか場所が定まりません。どうしてもうまく据わらないときは小石を枕にしたり、石をゲンノウで割ったり、飛び出した部分



を割り落として加工しました。こうして4段目くらいまで積み上げたら歩道の高さまで上がってきたので、最後は路肩に丸太を置いて、土を敷いて路面を締め固めて完成です。

石を積むに当たって、どの面を正面に持つとくきれいに並ぶのかがなかなか分からず、とにかく置いてみて安定するまで何度も何度もやり直すのに時間がかかりました。もっと経験を積んで慣れてきたら少しはスムーズに判断できるようになるだろうか？との予感がしたあたりで作業が終了してしまったので、もう少しやりたかったというのが本心です。また機会があったらぜひ挑戦したいです。(古澤 祐史)

皆さんりの姿で関わって

里山整備体験講座…今年は9名の方が研修に参加してくださいました。いつもデッキで倶楽部の概要などについて私から説明しているのですが、今回は少し寒かったので管理棟の中で行いました。管理棟の中では、森林公園ができた理由や森林ボランティアを募集することになったいきさつ、その後の活動の経過、倶楽部の組織、活動内容などについていろいろ説明しました。

倶楽部の活動を始めて20年。ついこの前、取り組み始めたばかりだと思っていたのに、早いものです。この20年でたくさんの人たちがボランティアとして協力してくれましたし、今も多くのメンバーがいろいろな形で公園の管理と活用、それに倶楽部の運営に関わってくれています。今回、この研修に加わってくださった皆さんも皆さんりの姿で今後この倶楽部に関わってくださるとうれしいなと思いながら説明をしていました。説明後、デッキや道具小屋などの設備を見て回りお昼に。午後は青木新道を降りて、炭焼き小屋を見学し、それから、里山のことや樹木たちのことを説明しながら園内を回りました。

次回はノコギリやナタを使って木を伐り、それを片付ける作業を行います。自然保護と伐採という相反するように見える二つの行為に、はたしてどんなつながりがあるのか、について考えながら作業を行ってみましょう。前回参加できなかったみなさんも、ぜひ5月の研修への参加をお願いします。(岡田 和久)



◆◆◆今後の里山整備体験の研修はこちら◆◆◆

5月16日(日) 9:30~15:00

テーマ「里山整備作業 Part I」(作業体験)

ノコギリとナタを使ってヤブ状態になった里山を整備。
多様な生き物の棲む里山を再生しましょう。

6月20日(日) 9:30~15:00

テーマ「里山整備作業 Part II」(草刈りと間伐体験)

午前中は森を育てる作業として不可欠な広葉樹植栽地の
下草刈り。午後はヒノキ人工林間伐体験を行います。

げんきの森が様々な色の新緑に包まれています。どの色もきれいで、輝いているように見えます。この緑は、眠っていた植物たちが目を覚まし、力強く活動を再開した色です。

緑は人の心に力を与えてくれます。そこから揮発されるフィトンチッドは人体がもつ免疫力を高めてくれます。

コロナで、何となく沈みがちになるこの頃だからこそ、緑に包まれて過ごす時間を増やしてみましょう。

きっと、何かいいことが起こるに違いありませんから。(岡田 和久)